

大原氏館跡

大原氏館は、鎌倉時代に近江守護佐々木氏が四氏に分流したとき、大原荘を与えられた重綱を祖とする大原氏の居館です。

大原氏は大原荘の地頭として鎌倉時代には幕府御家人として、室町時代には將軍の奉公衆に列して、大原荘の経済力をバックに鎌倉や京都で活躍した一族ですが、戦国時代になると次第に六角氏の家臣に組み込まれ、運命をともにしたようです。

現在、植林地・竹林の中に大きなL字型の立派な土壘、堀が残されています。平地の城館でこうした遺構が残っているのはたいへん珍しいといわれています。

大原觀音寺

もと伊吹山にあった觀音護國寺が、正元年中（1259～60）に現在地に移転して、大原荘の地頭・大原氏の保護を受けながら、弘安年間（1278～88）までに寺觀を整えたといいます。伊吹山のもともとの場所ははつきりせず、三合目の「桑の本」付近や弥高山であったともいわれています。

中世觀音寺には、23の僧坊があり、東谷13坊と西谷10坊に分かれています。さらに、西谷には法輪寺10坊があり、他山から伊吹山に入峰する客僧や山伏の宿坊だったと考えられています。

室町時代は、京都で活躍する大原氏の経済的なよりどころとなります。戦国時代には、浅井氏三代から寺領が安堵され、永禄年中には、背後の丘陵上に横山城が築かれました。石田三成と秀吉の出会いの地としても知られています。



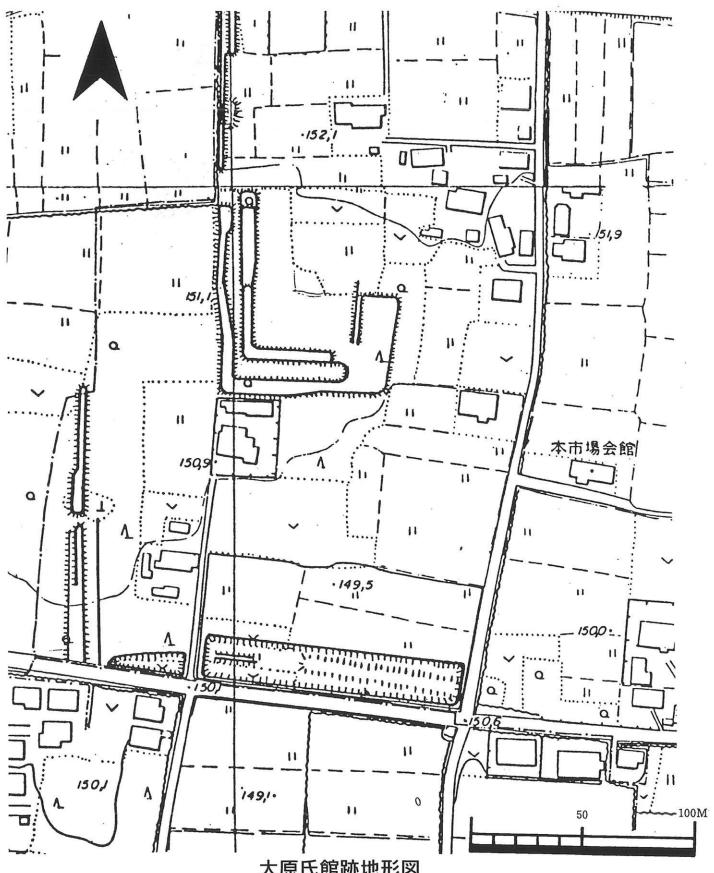
觀音寺全景



大原氏館跡



観音寺全景



大原觀音寺

■本堂【重文】

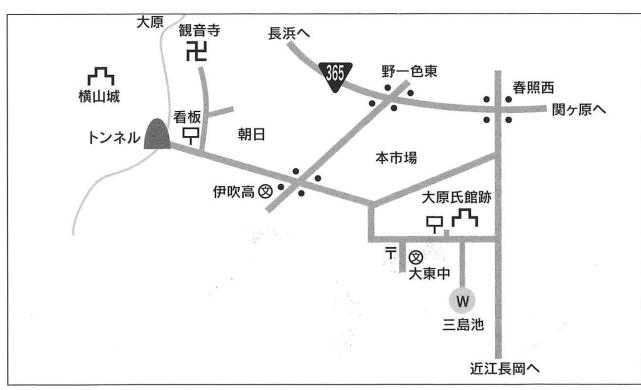
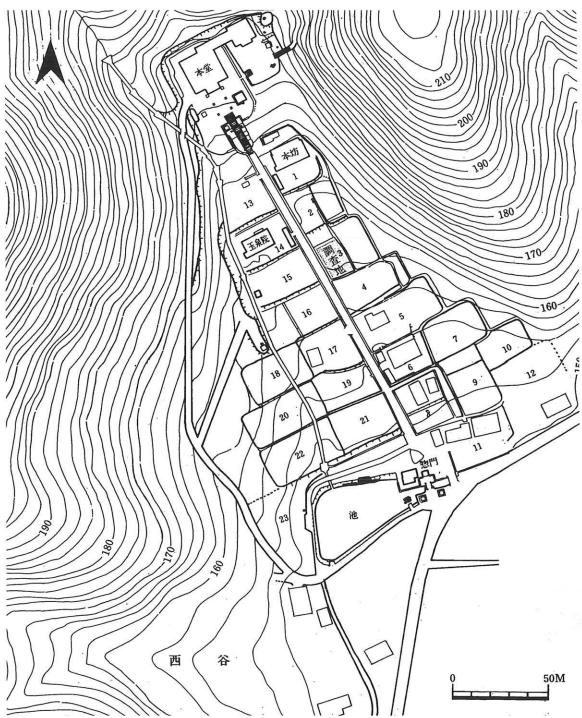
永宝4年（1707）に着手し、正徳5年（1715）に再建完成されました。建築の意匠にすぐれ、なかでも彫刻の豪華さは、近世を代表する傑作といわれています。

■鐘楼【重文】

本堂と同じ正徳5年の建立と考えられています。欄間などの彫刻のみごとさや、朱を残す垂木など、類例のない鐘楼です。

■惣門【重文】

一間一戸の薬医門で、18世紀中頃の建立と考えられています。寺院の景観や構成を知る上で重要な建物です。



大原氏館跡・大原觀音寺へのアクセス

ともにJR近江長岡駅から湖国バス長浜行きで、大原氏館跡は「市場会議所」下車。觀音寺は「觀音寺前」下車。徒歩すぐ。

大原氏館跡

所在地 滋賀県米原市本市場

大原觀音寺

所在地 滋賀県米原市朝日

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成19年度 市内遺跡保存活用事業